

図書館だより

題字 田部島根県知事

号数 第4号
発行日 昭和44年8月1日
編集 楫野健治
発行 島根県立図書館
松江市内中原町52
TEL (0852) 21-2101
印刷 渡部印刷株式会社



生活と読書

わたしの読書は、はじめからツン読のほうだった。アイスクリームのように、買ったその場で、すぐかぶりつかないと駄目になってしまうような本は、どうもにが手だった。保存がきいて、イキの長い、要するに必要なとき、読みたいときにいつでも身近に置いて読める——できるだけそういう種類を物色して買ったような気がする。だから本を買うときに頭をひねることは、この本を読むか、読まないかということより、むしろいま買っておいたほうがいいのか、どうかという考えが先に立った。

さて、わたしは昨年、役所をやめた。勤めているあいだ中、なにをいちばんたのしみにして、夢見ていたかといえば、それは1日も早く自由な身になって、朝でも昼でも好きな時間に、いつでも自由に読書がたのしめる、そういう屈託のない暮らしをもちたいということだった。それが、わたしの期待される余生の人間像だった。がしかし、この夢と期待をすこしでも実現性のあるもの、みのりのあるものにするためには、それだけの長い時間と準備が必要だった。ほかでもない、買えるときに買っておく、欲しいものはできるだけ集めておく、それと読書の習慣を身につけておくことだった。

退職してから、まる一年になる。いま書斎の本棚の前にすわっていて思うことは、自分が選んだこのツン読の道が間違っていなかったということである。同時にまた、このさき生きているあいだに、この中からどれだけ読めるかわからないが、より大切なことは、そんな何を何冊読むかということよりも、いつも読んでやろうという気持をもって暮らしているということである。

図書館協議会委員 漢東 種一郎

読書会をつくりましょう。

読書会は

近ごろ、よく『経済的にも、社会的にも、多忙な生活環境の中でわれわれが自己を見失なわないで歩むためには、もっと深く物ごとを思考する生活態度がうちかわれなくてはならない』といわれています。

こうしたことを反映してか、最近読書に対する熱が高まり、その一つの方法として、各地で集団読書が活発に取り上げられていることは注目すべきことです。このような現象は思考する文化としての読書が、あらためて認識されはじめたことを物語っているといえるのではないのでしょうか。

集団読書は、いわば読書会による読書活動なのです。

地域社会共通の課題を解決する方法としても、家庭教育という問題についても、また、ものごとの考えに共通の立場をもつ意味でも現代の多忙な社会、生活関係にあって「生活と読書」は極めて大切なことではないでしょうか。

また、集団で読書する過程を経て、ふたたび本来の個人の読書にかえり、その質を一層深めていくとか、おびただしい各種の出版物の中から時間的、経済的な条件を考慮しながら適当な本を見つけだしていく能力の助長にも役立つものだと思います。

こうした意味からも、新しい時代の読書として「読書会」を広くおしすすめていただきたいと思います。

読書会はてがるにできる

読書会は、数人の仲間があつまれば、ごくてがるにはじめられるところに長所があります。最初から理想的な読書会にしようと思案するよりも、まず数人の仲間によって読書会を始めることがたいせつです。

読書会にはいろいろな開き方がある

◎ある部落の読書グループ

＜新聞報道から抜粋＞

「毎月1回の巡回文庫（自動車文庫）で生まれる共通の話題、

地域ぐるみの読書グループ、誕生して8年、総勢69人、半数以上が主婦

「子どもは、たいいてい高校へ進学して賢うなる。

母親の私らも本を読まにゃあ……」

その意気込みは、都会の主婦以上ということです。

この地区は、米とナシの二本立農業、平均収入は年70～80万円このため、多くの主婦は、道路工事や製紙、

メリヤス工場の出稼ぎが多いとのこと、もちろん、掃除、洗たく、家事、育児といった本来の仕事もあるとのこと、こんな労働の中で「本を読む」のです。

「きょうの日当かせぎは、この集まり（読書会）でパアになった。だけど本の話は楽しいもん、お金にゃかえられんわな」といっているという。

子どもが本を読まない、としかる前に親が反省をといわれる。この地区の主婦たちはそれを実感したのです。

「自分たちが本を読むようになってから、子どもまで本を広げる習慣がついた」と……。

見のがせないのは、リーダー谷口とよさんの奉仕です。会員の年齢や、家族構成を考えて本を選び、地区の有線放送で本の内容を紹介したりしているという。

『この1年間にグループで読んだ本は約1,400冊、1人20冊強の勘定、夫婦、親子が同じ本を手にすることが多いので共通の話題が生まれ、地区全体が仲よしになって……。いなかでは読書の効能はきりがありませんわ……。』

と谷口さんは述べています。

このように読書会づくりの動機には、いろいろあるが、身近かな生活上の問題解決を糸口として生まれたもの、あるいは自発的な動機で生まれたものは、興味深く長つづきがしているようです。

読書会というと、とかく生活と遊離した、教養主義「ひま人」の同好会の集まりと思われがちですが、決してそうではなく、きわめて実践的で生活に直結したものであるということです。

◎ある村の読書グループは

農事研究グループの会員が、たまたま役場にいったところ、ちょうど県の自動車文庫「しまね号」が駐車していた。どんな本があるだろうかと思って閲覧していたところ、平素グループで問題にしていた農業経営の近代化に関する本が見当り、その本を読んでたいへん感銘した。そのことを次の会合で話題にしたところ、ほかにも、まだ、いろいろな本があるのではないかということから、それぞれ会員が関連する本を読み、話し合い農業経営の改善に努力しているということです。

こうして自ら本を購入したり、県の自動車文庫を利用して農業関係者ばかりでなく、他の幅広い分野にわたる本を読んで生活内容を豊かにするよう努力しているということです。

◎ある町の青年グループは

日ごろ、農事や家事に追われて本を読む機会がないので、とかく社会常識に欠けがちである自分たちに気づき、数名の仲間が寄って最初は雑誌を共同で購入して、それをみんなで回し読みすることから始め、月1回は必ず集まって感想など話し合っているうちにおもしろさが湧いて、いまではいろいろな本を読むようになったということです。

◎ある小学校PTA読書グループは

あるお母さんが、平素子どもの成績やしつけのこと、学習のことについて悩み、PTAの会合で話し合いをしたり、すぐれた先生の講演を聞いたけれども、それだけではどうしても納得ができない。たま、たま、校長先生から自動車文庫の「しまね号」で本が借りられることを知らされ、すすめられる本を読んだところ非常に感激した。つぎつぎに本を読んでいくうちに、子どもの教育は子どもだけを教育するだけではなく、まず親自身が勉強をしなくてはいけないことに気が付き、同じ悩みをもっているものに呼びかけて、読書グループをつくり、集団読書による集団思考によって、会員もつぎつぎと増えて、当時4人ではじめたものが、半年後には16人になり、今では月1回の会合が楽しみだといっているいろいろな本が読まれているということです。



読書会風景

グループ活動や学習グループの中に読書を導入する

ここで考えている読書会は、かならずしも読書だけをする会というのではなく、最近各地で盛んにおこなわれている既成のグループや、家庭教育学級、婦人学級、青年学級等学習活動の中に読書を導入して新しい問題の解決を求めていくといった形の会も、読書会といってしまうとつかえありません。

前例の農業研究グループなどがその例です。

活動の行きずまりを打解するうえにも、大いに役立つと思います。

読書会の運営と目標

読書会の運営は、とりわけ、きまった型があるわけではなく、それぞれの会の性格にあった行きかたが考えられねばなりません。

そのためには、会の性格や一応の目標についてみきわめる必要があろうかと思えます。

読書会だからといって、図書だけをとりあげた会の運営ではなく、映画やレクリエーション等を取り入れるなどして、工夫と幅広い活動方法を取り入れることも大切だと思います。

読書会の意義、目標は広範なものであるがおもしろものを拾ってみると、次のようなものがあります。

- 読書技術を身につける。
- お互いの刺激により読書領域を広げ、それを深める。
- 読書意欲を起させせる。
- 親しい交友を得る。
- かたよらない知識を得る。
- 知識を実践に結びつけることを知る。

会の進展の度合に応じそれぞれ重点のおきどころを見つけることがたいせつです。

読書会の基本的な条件

1. 名称

職域、青年団、婦人会、PTA、諸学級などの活動の一環として読書会をもつ場合には、ことさら独立した名称をつける必要はなく、一般に名称をつける場合には会員から募集するなどして、できるだけみんなが親しめるものがよいとおもいます。

2. 事務所、または連絡所

会員間の連絡を密にするためには、連絡場所（事務所）を決めておくことが必要で

す。

公民館などをお願いして事務所を置くと、会員にとって便利ですが、個人の家などを連絡場所とする場合には、世話役の家が何かにつけて都合です。

3. 組織

(1) 会員

◦ 人数

人数が多いと親しみがうすくなりがち、また、少ないと氣勢があがらず話し合いの範囲も狭く、会の運営にもさしつかえるようになります。普通10~20名（15名前後）の人員が望ましいといわれています。

人数にこだわらないで、数人のグループができればそこから出発してもよいでしょう。

会員の多いときは、数グループに分けることもよい方法です。

◦ 層

年齢、教養、趣味、職業がだいたい似ていると共通の話題が多く近親感も強いのでまとまりやす

いが、しかし、やり方によっては、差のある方がかえってお互いの啓発になることもあります。

・性別

特別の事情のないかぎり男女いっしょの方がよいと考えられます。

(2) 世話役

選挙または、当番制によって会員があたり、すくなくとも2名は必要で、会合の連絡や、会場の世話、司会、その他記録、庶務会計などの仕事にあたり、1名は運営面に、他の1名は庶務会計にあたるようにして責任の分担をすることが望ましいと思われれます。

(3) 代表者、相談役

読書会が孤立した同好会にならず、周囲との明朗な関連のもとに運営されるためには代表者を決め、適当な人に相談役になってもらうことも必要だと思えます。

(4) 指導者

同程度の会員がどんぐりの背くらべをしながら、勝手に話し合っているのは一見、民主的にみえるが、内容的にみるとムダが多く効果があがらないことも考えられます。指導者は一方的に指導するのではなく会員の自主性をうながしながら、カジ取り援助する水先案内の役目をするものであります。

読書会の効果は指導者によって大きく左右されますので、指導者を選ぶことは、またたいせつなことです。

4. 例会

(1) 連絡

連絡は全員にもれなく出すようにする。ハガキなどの文書で通知する場合は事務的な文面に終わらず、会員の個人消息を附記するなどできるだけ親しみやすいものにするよう工夫することもたいせつです。

また、年間計画をたてているところでは、次回の日時や、テーマなども念のために知らせておくことも大切です。

(2) 回数と時間

月に1回程度が、読書会の中で一番多く、だいたい1時間半から2時間ぐらいが適当だと思われれます。

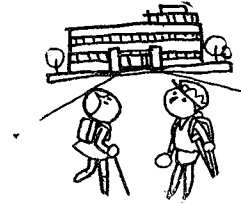
話し合いに熱が入ると、とかく時間が長くなりがちだが、あらかじめ決めた時間は厳守する習慣をつけないと、会員の中には計画的に参加することがむつかしくなり、脱会者を出す原因となります。

進行係や司会者は、十分気を配って、開会、閉会の時刻を厳守する習慣をつけることが大切だと思えます。

(3) 形態

読書会の代表的な型として次の三つがあげられています。

- (ア) 輪読会式
- (イ) 研究会式
- (ウ) 発表会式



読書会の進め方

読書会には、とくにきまった形態があるわけではありません。それぞれ自分たちに最も適した方法を自由に選んで工夫しながら進めて行けばよいわけです。あまり、堅苦しく考えると、かえって会のおもしろ味がなくなることがあります。

- ・興味をひかれたこと
- ・書物を読んで気のついたこと
- ・疑問に思ったこと
- ・深く考えさせられたこと
- ・ためになったこと
- ・してみたいこと

こうしたことについて、話し合ってみることはどんなものでしょう。なごやかな雰囲気をかもし、自由の中にも秩序あるものとするよう心がけ、会員の発言はできるだけ生かすようにすることと、発表の機会はできるだけ均等に与えられるように配慮することもたいせつです。

県立図書館の図書を読書会で利用するには

読書会で県立図書館の図書を利用されるときは、次の文庫をご利用ください。

・自動車文庫

この文庫は公立図書館やモデル文庫のない市町村の配本所へ2カ月に一度ずつ巡回する移動図書館です。自動車文庫しまね号には読んでみんなが楽しめるものや、家事、育児、農業技術、一般教養書、児童用図書など約2,000冊の図書を配架しています。

利用の方法は、近くの配本所かまたは巡回市町村の教育委員会に申し込んでください。

・職域文庫

地域や、職域の団体やグループで約50冊の図書を2カ月の期間利用することができます。

利用の方法は、直接県立図書館振興課普及係へ申し込んで下さい。

・家庭文庫、青年産業文庫

この文庫は、集団学習や各種学級活動などのテキストや、副読本として利用できる文庫です。

利用については各市町村教育委員会を通じて申し込んでください。

このほか読書会について尋ねたいことがあれば県立図書館に遠慮なくお問合わせ下さい。

読書会グループ訪問

① 大田市万葉集読書会

久利銀泉会で万葉集の読書会をしようという計画が出たのは昭和42年11月であった。銀泉会とは郷土の環境を少しでも改善する社会事業とわが子の教育を理解し若い者の進歩に遅れない研修をすることを目的としている。30、40歳代の父親層で組織されている。

翌12月から早速実行に移し今日まで、毎月1回おこなっている。

会場は久利公民館、久利農協または鈴木宅で、時間は午後8時半から10時までである。テキストは斎藤茂吉著『万葉秀歌』上・下(岩波新書)を用いている。

司会は大田市立図書館員鈴木大東がこれに当たり、方法は輪読会式によってやり、参加者は10人内外である。はじめ万葉集のような古典をやっても続くだろうかと懸念もあったが、やってみると案外おもしろく、いつの間にか1年半経過してしまった。

一句一句味わってみると古代人の健康で明朗な人間性がじかに感ぜられ、まことに興味深い。万葉集といういわれわれの手の届かないはるか昔のもののように思われるが、読んでみると案外現代の人間に共通するものも多いことがわかり、また古今和歌集はじめ他の和歌集のように貴族的なところがないのが特に万葉集に親しみを感ぜさせたゆえんであろう。

この6月上巻が終わったので、7月から下巻に入る。もしもこの読書会をもたなかったなら永久に目にふれなかったかも知れぬ名歌の数々を味わい得たことは、この読書会の大きな収穫であるが、下巻も引き続き最後まで続ける考えである。

(大田市立図書館 鈴木大東)

② 三隅町井野すくすく読書会

3つの部落読書会を総称して「すくすく読書会」という。誕生して4歳を経る。無限の可能性をもつ子どもがすくすく伸びるように。そして、そのためには親もまた、すくすくと無限の成長を続けなければ……。それが私たちの願いであり、決意でもあった。

読書会内容は部落によって違うが、中学校の職員室、会員宅、お宮などを借り、農繁期を除き、月1回の開催をめざした。進行には特別なルールがない。図書紹介、

輪読、感想発表、人生論から世間話しまで飛び出す。総員50数名のほとんどは女子。年齢はさまざまだが、農家の主婦が多い。熱心の一語に尽きる。厳しい労働の疲れが、もっと表情に出るのが普通なのに、不思議なほどに明るい笑顔。「今、やっと子どもが寝たんですよ。」と、息をきらしている会員。時には、手製の心づくしの菓子が配られることもあるなどやかな雰囲気。合掌したくなる。

図書はすべて県立図書館「しまね号」の恵みを受ける。幾曲り曲って、あの山峡に「しまね号」が姿を現わした時の感動は、今も忘れられない。

悩み……読書時間にも恵まれていないし、図書交換も思うようにいかない。読書の記録も不十分、親子読書もしたい。いうならば4歳児である。が成長したいのである。すくすく読書会は、これからも読書を杖にして、生きがいを感じあい、豊かで開かれた自己や連帯感等を模索し続けていくであろう。

(浜田教育事務所 花崎良順)



レファレンス・コーナー

——最近のレファレンスの実例から——

(問1) 建築でむねあげの時、大工振舞として「けんずい」なるものをおこなうが、その字はどう書か。

(答) 建築行事は今日では上棟時に集中する傾向にあり、一般に多数集まってにぎやかにおこなわれる。日本社会民俗事典によると「新築の家あるいは親類が、大工を饗応し物を贈る風が一般的で、ダイクブルマイ、ゲンズイピラキ、ゴチャウなどこれをいう。

ケンズイ(間食)、ゴチャウ(午餉)はいずれも中間の食事の古語で、作業場へ運ぶ食事の称が残ったもの」(351P)とされている。「けんずい」は近畿およびその周辺で使われる言葉で間食の呉音である。

国語辞典には次のように出ている。

辞海 間水(ケンズイ)

新国語中辞典 間水(ケンズイ)

大言海 間食(ケンシイ)

(問2) 第17回デミング賞の受賞者が知りたい。

(答) デミング賞とは品質管理の理論と実施にりっぱな貢献をした個人や機関に与えられるものです。

本賞 近藤次郎(東大教授)、実施賞 神鋼綱線鋼索
中小企業賞 小島プレス工業

告 知 板

◎全国公共図書館奉仕

部門研究集会迫る

本年度の全国公共図書館奉仕部門研究集会は、いよいよ来る10月7日、8日県立図書館において開催されます。

集会には、全国公共図書館より約100名の参加者が見込まれ、変貌する現代社会に即応する図書館の奉仕活動について特に貸出しの推進、「広報、集会、組織活動」および「広域図書館計画」などの課題を中心にして研究討議がおこなわれ、その成果が期待されています。なお当日の研究内容は次のとおりです。

(1) 講演

講師 九州産業大学教授 菊池祖氏

(2) 分科会

・市町村立分科会

(主題) 「貸出し増進について」

(協議題)

「主題のほか市町村立図書館における館内奉仕活動について」

・合同分科会(県立、市町村立)

(主題) 「広報、集会、組織活動について」

(協議題) 「主題のほか館外奉仕活動について」

・県立分科会

(主題) 「広域図書館計画について」

(協議題) 「広域図書館計画および、県立図

書館における館内奉仕活動について」

(3) 全体会議

各分科会で研究討議した内容について司会者から報告し質疑応答をおこなう。

◎移動文化教室の巡回

県立図書館では今夏初めて文化キャラバン隊を編成し、石見部の過疎地帯にはいって移動文化教室を開きます。

一行は楳野館長を隊長に、振興課職員等総勢10名で編成、図書館車「しまね号」とライトバン車に、図書、ステレオ、映写機などを積んで8月6日朝出発、6、7日は美濃郡匹見町豪雪センター、7、8日は那賀郡弥栄村文化センター、8、9日は邑智郡石見町日和小学校で教室を開きます。

これらの地域は、平素、文化的行事に恵まれていないので特に、小中学校の夏休み中を利用して子どもから大人まで各層に読書会や映写会などいろいろな文化的奉仕をおこない、読書普及に一役かおうというのが目的です。

時間は第1日が午後7時30分から10時まで、翌第2日が午前9時から正午まで。この間図書貸出しのほか同行する教育評論家切明悟氏の講演、同氏の指導による読書会、ストーリーテリングなどによる子ども会、珍しい図書や新聞の展示会、映画会、レコードコンサートなど多彩な催しが計画されています。

寄 贈 図 書

◎郷土資料寄贈

図 書 名	住所	寄 贈 者
石見古事談	浜田市	浜田市立図書館
石見高島の秘話	益田市	矢富準
田畑修一郎	〃	〃
医光寺史	〃	〃
益田町史附録	〃	〃
贈正一位柿本朝臣人麿	〃	〃
記事	〃	〃
萬福寺史	〃	〃
益田口戦争	〃	〃
晩翠遺抄	〃	〃
国東治兵衛	〃	〃

◎一般

ユニバーシアード大会報告書	東京都	日本体育協会
未完の悲茄	札幌市	水口幾代
日本公証制度沿革史	東京都	日本公証人連合会
広田孝一遺稿集	高知県	広田孝一
三井造船KK50年史	東京都	三井造船株式会社
理想的観光地を求めて	〃	早稲田大学
基地と大学	福岡市	九州大学
広造年鑑	大阪市	万年社
中国地方の農業電化	広島市	中電農業電化協会
企機金融	東京都	野村証券KK
君の日本のあすを呼ぶ力	〃	社会教育協会

お雇い外国人①～⑦	〃	鹿島卯女
ひのぼりの子1968	木次町	日登中学校
市町村経営	松江市	県総務部地方課
日本総合図書目録	東京都	日本書籍出版協会
昭和43年度島根県農林業の動き	松江市	島根統計調査事務所
須恵村の商品流通	熊本県	多良木中学校
日本の椿	大阪市	武田科学振興財団
歌集湖の頌	松江市	森脇善夫
観世流改訂謡本	三刀屋町	陶山潤
我が家の礎	浜田市	俵三九郎
原子時代とベトナム戦争	東京都	小山貞知
海外事情研究所報告	〃	拓殖大学海外事情研究所
浜田の栄光俄国一博士	浜田市	宮本正勝
研究紀要第7号	安来市	県立安来高等学校
昭和43年度青年国内研修旅行報告書	松江市	県教育庁社会教育課
日本思想の系譜	東京都	国民文化研究会
特別意匠たばこ包装集	広島市	日本専売公社広島地方局
則鳴	松江市	田村徳子
郷土の文学石見路	江津市	県立江津工業高校
出雲大社由緒略記	大社町	出雲大社社務所
祝言小謡本	大東町	大東町立図書館
小泉八雲集等	松江市	米島弥生
平田市誌	平田市	平田市教育委員会
式辞あいさつ文集	松江市	島根県秘書課
才能教育の心理学	〃	野津良夫

郷土資料室コーナー



◎郷土資料の紹介

かいきつだん

懐橋談 上下2巻 黒沢石斉著 承応2年(1653年)

松江藩儒者、黒沢石斉元和8年～延宝6年(1622年～1678年)の手になるもので、一名を出雲十郡記とも言う。出雲風土記にもとづいて承応当時(1652年頃)の出雲各地(意宇郡、能義郡、島根郡、秋鹿郡、楯縫郡、出雲郡、神門郡、飯石郡、仁多郡、大原郡)の見聞を記した地誌で、出雲の地理歴史研究の好資料。

れつしりく

列士録 56冊 凡例1冊 写本

松江藩の編纂になり、松平氏の松江入府より明治2年(1869年)版籍奉還までの松江藩の士分以上の者についての家系家伝を集成したものである。数回にわたって藩士より書き上げさせたもので松江藩の歴史を研究する上で根本資料であり、いまだ活字化されていない貴重な資料。

◎郷土人文庫受入状況

館報3号で郷土人文庫の開設についてお知らせしましたが、その後7月10日現在13人の方より当文庫の趣意にご賛同いただき下記のとおり計50冊の貴重な図書をご寄贈いただきました。これらの図書は近日中に整理して郷土資料室に別置し、一般の閲覧に供するよう準備中です。今後とも各方面のご協力をお願いいたします。

郷土文庫寄贈者

図 書 名	寄贈者	住所	職 業
西洋経済史	大淵彰三	東京都	中央大学教授
香料小史	"	"	"
暮らしの経済学	"	"	"
社会政策の歴史理論研究	河野 稔	京都府	関西大学教授
床代経済史研究	周藤吉之	東京都	東大教授
唐床社会経済史研究	"	"	"
中国土地制度史研究	"	"	"
社会福祉入門	塚本 哲	東京都	東洋大学教授
心の相談室	"	"	"
第3の人生	"	"	"
老人社会福祉	"	"	"
赤いサンダル	"	"	"
東洋大学社会学部紀要	"	"	"
中国文学史研究	増田 渉	大阪府	大阪市立大学教授
世界史コンパニオン	千代田謙	広島市	広島大学教授
歴史学	"	"	"
教養西洋史	"	"	"
史学概論と精神史特講	"	"	"
世界の歴史	"	"	"
第19世紀ドイツ史学史研究	"	"	"
秘録山中鹿之介	村松駿吉	東京都	小説家
山陰の民俗と狩猟儀礼	石田隆義	大田市	元高校教諭
戦後日本賃金論争史	山本正之	豊中市	会社員

— 3月1日から5月末日まで —

- 44年 3月4日 自動車文庫美鹿コース巡回
5日～7日 日大医学部図書館職員・佐賀県立図書館職員来館
8日 文化映画を見る会・ステレオコンサート 曾田稔・雨両氏より図書千余冊の寄贈を受ける
10日 自動車文庫邑智コース巡回
11日～17日 岡山県倉敷教育事務所職員、出雲市大津婦人会、愛媛県立図書館職員来館および平田市東小学校家庭教育学級集会室で学習
18日 自動車文庫、広瀬、頓原コース巡回
19日 松江ロータリークラブ会員、岩手県立図書館、国立国会図書館、大分県立図書館職員および国立博物館学芸部長来館
(3月中閲覧者総数13,160名)
4月7日 図書の寄贈をうけた曾田稔、雨および新宮忠雄氏に対して感謝状贈呈
8日～11日 佐賀県立図書館協議会委員、浜口ハウジング設計事務所、松江市立津田小学校130名、頓原町立志々小学校40名 来館見学
12日 文化映画を見る会・ステレオコンサート
15日 ばく書のため休館(24日まで)
16日～20日 鳥取県建築設計監理協会会員、松江ライオンズクラブ会員 東出雲町立東出雲中150名、平田市立灘分小学校100名、佐田村立佐田小学校40名来館見学
22日 読書普及研究協議会
23日 頓原町立頓原小学校63名、玉湯町立玉湯中学校150名、出雲市立高浜小学校40名来館見学
24日 文化講演会
25日～30日 八東村立八東中学校100名、県立安来高校母里分校60名、安来市立安来小学校150名、県立飯南高校10名、津和野町立名賀小学校7名、出雲市立塩冶小学校100名、木次町立斐伊小学校80名来館見学
(4月中閲覧者総数9,320名)
5月1日～10日 平田市立西田小学校60名、松江工専図書館副委員及び松江寿会会員40名、カリフォルニア大学長夫妻来館見学
11日 こどものつどい(低学年)
12日 自動車文庫加賀、八雲コース巡回平田市立久多美小学校65名、伊丹市役所総務部長ほか来館
13日 自動車文庫伯太コース巡回
14日 自動車文庫日御碕コース巡回 福岡県建設部長ほか来館
15日 自動車文庫湖南コース巡回
17日 古文書を読む会
18日 こどものつどい(高学年)
19日 自動車文庫美鹿コース巡回
20日 図書館協議会(第1回)
24日 文化映画を見る会・ステレオコンサート
26日 自動車文庫邑智コース巡回
27日 鳥取県議会文教総務委員11名来館見学
30日 県立図書館友の会役員会 佐々田奉公会理事長来館見学
(5月中閲覧者総数12,830名)

新着資料の紹介

1. 館内用図書

(総記)

書名
 発禁本百年
 号外百年史
 参考調査法
 万博知事
 定本モラエス全集2・4

(哲学)

哲学はいかにして生まれたか
 再び宗教は必要か
 現代青年にとって教養とは何か

(歴史)

近代中政の自由と民族
 ルネサンス期イタリヤ社会
 遊牧の運命
 韓国現代史

(社会科学)

知能検査50の質問
 娘の学校
 園児の絵画製作
 写真集 教育百年史

(自然科学)

社会の中の医学
 電子計算機プログラム入門
 竹・笹の話
 プロサラーマンの健康設計

(工学)

スピード百年
 建築、室内、人間工学
 21世紀の日本産業
 NHK育児手帳

著者
 城一郎
 小野秀雄
 長沢雅男
 佐藤義詮
 モラエス

有田潤
 クラーク
 佐藤忠男

矢田俊隆
 森田鉄郎
 岩村忍彦
 林健彦

田中教育研究所
 なだいなだ
 井手則雄
 国勢研究所

高橋眺正
 安田寿明
 室井緯
 田多井吉之介

毎日新聞社
 小原二郎
 矢野誠也
 松田道雄

(産業)

日本の伝統産業
 株はいつ買うべきか
 いつうればよいか
 古庭園のみかた
 京都名園記上・下

(芸術)

倉敷
 のらくろ漫画全集
 写真引伸全書
 世界の人形劇

(語学)

英語教育投書
 現代文体論
 英語を学ぶ人のために
 永遠の人ケネディ

(文学)

道の半ばに
 穴と海
 ロダンの生涯

(レファレンス)

昭和44年版大日本分県地図

日本名言辞典
 東西名言辞典

(児童)

日本わきしどうわ
 大蔵永常
 南太平洋の激戦

(郷土資料)

平田市誌
 八川村史
 鷗外の子供たち
 過疎と教育

遠藤元男
 アーサー・A・メリル

吉川霽
 久恒秀治

中村昭夫
 田河水泡
 フォトアート
 南江治郎

田崎清忠
 吉武好孝
 福原麟太郎
 グレイ

三浦朱門
 丸山健二
 D・ウェアス

国際分県地図(KK)

桑田忠親
 有原末吉

二反長半
 国土社
 棟田博

同法編さん委員会
 同村史 "

森類
 寺本彦

2. 映画(16ミリ)フィルム

番号	題名	巻数	対象
316	血液と生命	2	青、成
317	北風と太陽(カラー)	1	小
318	商業のしくみ	2	小(社会)
319	ものが燃えるとき何が おこるか(カラー)	2	中(理科)
320	工作機械のプログラム制御	2	高(工業)
321	老人、そのしあわせ	4	成
322	あだなと友情	2	小(学校行 事等)、成
323	彫刻の基礎	2	中(美術)
324	光合成(カラー)	2	高(生物)
325	社会教育における視聴覚教材 の利用	3	成
326	ボクは反抗期	3	成
327	横断	3	青、成
328	老人の心	2	青、成
339	危い、あなたの子が(カラー)	3	成
330	いうことをきく子を育てる	3	成
331	曲り角のPTA	3	成
332	海ひこ山ひこ(カラー)	2	小低、小中、小高

番号	題名	巻数	対象
333	この子らのために手をつな (県)ごう	2	中、高、青、成
334(県)	道路整備	2	中、高、青、成
335 (県)	明日をめざす一つくる漁業一	2	中、高、青、成
336 (県)	体力づくりにかける村	2	中、高、青、成
337 (県)	ある日の派出所	2	中、高、青、成
338	創造性—その育て方—	3	成
339	職場と礼儀	2.5	中、高、青、成
340	中学生のしかり方ほめ方	3	成
341	父と子の対話 —高校進学をめぐる—	3.5	成
342	ありがとう	4	小(中・高)、中、 高、青、成
343	小さなおくりもの(カラー)	3	小、成
344	竜門の人びと(カラー)	4	高(農業)、青、成
345	あととりを育てる	3	高(農業)、青、成
346	歩行者の交通法規 (パートカラー)	3	小(高)、中、 高、青、成
347	日本の古墳(カラー)	3	高(社会)、青、成